

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-149415

(43)公開日 平成10年(1998) 6月2日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

G 0 6 K 19/06

G 0 6 K 19/00

B

G 0 6 F 17/60

17/00

L

G 0 6 K 17/00

G 0 6 F 15/21

A

Z

審査請求 有 請求項の数3 F D (全 5 頁)

(21)出願番号

特願平8-323447

(22)出願日

平成8年(1996)11月18日

(71)出願人 596174813

八島 武久

愛知県名古屋市南区駈上一丁目2番B733号

(71)出願人 596174824

成木 俊一

愛知県名古屋市南区本城町2丁目51番地

(71)出願人 596174835

黒柳 政秋

愛知県名古屋市南区呼続4丁目21番14

(72)発明者 八島 武久

愛知県名古屋市南区駈上一丁目2番B733号

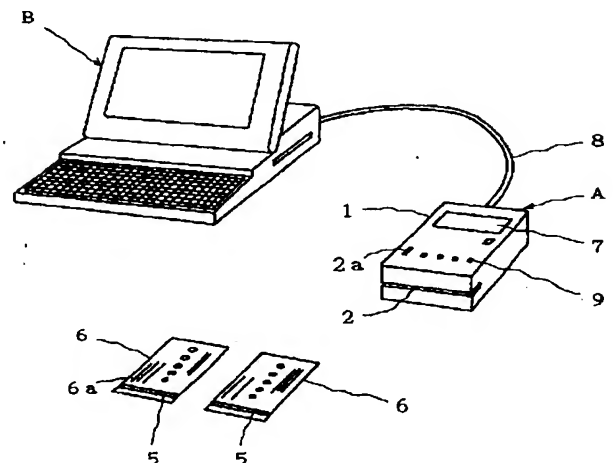
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 住所管理用データ入力装置

(57)【要約】

【目的】 名刺に表示した住所をスキャナーとOCR装置で読取るデータ入力装置に代わる住所管理用データ入力装置に関する。

【構成】 機器Aは住所管理ソフトが利用できるパーソナルコンピュータBのデータ入力装置であって、機器Aの枠体1には磁気カード読取書込手段2と、データ表示手段7を設け、また、枠体1内には読取データを処理する制御手段とデータ記憶手段とを備えている。磁気カード読取書込手段2で読取る磁気体5は表面に住所が印刷される名刺や葉書で形成しており、名刺や葉書は住所カード6として機能して表記住所6aと略同一の住所データが磁気体5に書込んである。この磁気体5に書込んだ住所データを磁気カード読取書込手段2が読取ってデータ記憶手段4に記憶させ、また、データ記憶手段4に記憶した住所データは磁気カード読取書込手段2によって、他の名刺や葉書の磁気体5へ書込み複製できる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 機器 A の枠体 1 には磁気カード読取書込手段 2 と、制御手段 3 と、データ記憶手段 4 とを設け、データが書き込まれた磁気体 5 を磁気カード読取書込手段 2 が読取ってデータ記憶手段 4 に記憶させ、該磁気カード読取書込手段 2 には書込スイッチ 2 a を設けてデータ記憶手段 4 に記憶したデータを他の磁気体 5 へ書込み複製すると共に、磁気体 5 を形成した住所カード 6 は名刺・葉書などの住所記載のあるカードで構成し、住所カード 6 の表記住所 6 a と略同一データが磁気体 5 に書込してあることを特徴とする住所カードを用いた住所管理用データ入力装置。

【請求項 2】 枠体 1 にはデータ表示手段 7 を設け、データ記憶手段 4 に記憶した住所データをデータ表示手段 7 によって表示してなる請求項 1 記載の住所管理用データ入力装置。

【請求項 3】 機器 A は住所管理ソフトが利用できるパーソナルコンピュータ B のデータ入力装置として機能しており、機器 A の枠体 1 内のデータ記憶手段 4 とパーソナルコンピュータ B とは着脱自在なインターフェース手段 8 によって連動し、該データ記憶手段 4 に記憶した住所データはインターフェース手段 8 を介してパーソナルコンピュータ B に出力すると共に、データ記憶手段 4 は住所カード 6 の他にパーソナルコンピュータ B の出力で住所データを記憶することを特徴とする請求項 1 記載の住所管理用データ入力装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明はスキャナーと OCR 装置を用いるデータ入力装置に代わる住所管理用データ入力装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 データ処理の方法としてマイコンやパーソナルコンピュータの利用が盛んになっており、最近ではキーボードから入力する方法に代わって、マウスによるポイント入力を多用したソフトが多くなっている。また、データ入力についてはキーボードから入力する代わりに文字を画像として取込むスキャナーはかなり安価なものが市販され、高性能なパソコンでは画像として取込んだ文字情報をテキストデータに変換する OCR ソフトが実用段階に入ってきた。

【0003】 一般的に OCR ソフトの必要性は、他から取寄せた文書をワープロなどの文字データとして利用する為のものであるが、最近ではデータベースソフトのデータ入力に使われることが多くなっている。中でも注目されるのは仕事の上ですぐに溜ってしまう名刺を管理する目的で、名刺をスキャナーで読取り、OCR ソフトで文字データを解析し、記載された名称や住所などのデータを管理するソフトが市販されている。

【0004】 日本では人と会う時には必ず名刺を渡すこ

2

とがあたりまえとなっており、この名刺の管理をうまくできるかどうか、仕事をこなす上で極めて重要になっており、上記のスキャナーと OCR ソフトを利用して名刺を読取る住所管理ソフトは、データ入力の手間が少ないからかなり注目されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、実際に使われる名刺は普通の文書と異なり相手に与える影響を大きく強く印象付ける為に、活字の大きさや書体が工夫され、デザインの的に処理されたものが多くなり、必要とする住所データや電話番号・FAX 番号が小さかったり、漢数字で書かれたものも多いものである。

【0006】 この為、名刺による住所管理ソフトと組み合わせるスキャナーは、小さな文字でも確実に読取ることができる優れた解像度が必要であり、また、使用する OCR ソフトも活字の大きさや洋数字・漢数字、傾斜文字を含む多くの書体の混合でも確実に解析できる高精度なものが必要である。

【0007】 一方、市販されている住所管理ソフト自体は多機能であってもかなり安価に供給されているが、使用するスキャナーの性能・組み込まれた OCR ソフトの精度・運用するパソコンの能力などから、名刺から直接入力するシステムは極めておおがかりで、誰でも気軽に運用できるようにはなっていないのが現状である。

【0008】 また、使い易さを狙って小形のスキャナーを装備して専用機として構成した時には、スキャナー及び OCR ソフトの能力不足をキーボードから修正入力する方式となって使いにくくなり、結局、名刺から直接入力するシステムではスキャナーと OCR ソフトの性能で能力が決まってしまう為に、期待されながら普及しにくくなっている。

【0009】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するためにこの発明は、機器 A の枠体 1 には磁気カード読取書込手段 2 と、制御手段 3 と、データ記憶手段 4 とを設け、データが書き込まれた磁気体 5 を磁気カード読取書込手段 2 が読取ってデータ記憶手段 4 に記憶させ、該磁気カード読取書込手段 2 には書込スイッチ 2 a を設けてデータ記憶手段 4 に記憶したデータを他の磁気体 5 へ書込み複製すると共に、磁気体 5 を形成した住所カード 6 は名刺・葉書などの住所記載のあるカードで構成し、住所カード 6 の表記住所 6 a と略同一データが磁気体 5 に書込することによって、確実に住所データを読取り可能としたものである。

【0010】 また、枠体 1 にはデータ表示手段 7 を設け、データ記憶手段 4 に記憶した住所データをデータ表示手段 7 によって表示することで、データ記憶手段 4 に記憶した住所データの確認が可能になり、住所カード 6 の複製時及びパーソナルコンピュータ B の入力時に住所データが正確となる。

3

【0011】更に、機器Aは住所管理ソフトが利用できるパーソナルコンピュータBの外部データ入力装置として機能しており、機器Aの枠体1内のデータ記憶手段4とパーソナルコンピュータBとは着脱自在なインターフェース手段8によって連動し、該データ記憶手段4に記憶した住所データはインターフェース手段8を介してパーソナルコンピュータBに出力すると共に、データ記憶手段4は住所カード6の他にパーソナルコンピュータBの出力で住所データを記憶することによって、枠体1には住所データ作成機能を省略することができる。

【0012】

【作用】この発明は住所管理ソフトの入力手段として、名刺や葉書などの住所が記載されている住所カード6を使い、スキャナ読取に代わる磁気カード読取書込手段2を用い、住所カード6の表記住所6aと同じデータを住所カード6に形成した磁気体5に書込したから、住所カード6の磁気体5部分を磁気カード読取書込手段2に挿入して滑らせれば、磁気体5に書込した住所データをデータ記憶手段4に記憶させることができた。

【0013】また、データ記憶手段4に記憶した住所データは磁気カード読取書込手段2を書込みモードにセットして磁気体5に書込む複製手段を構成したから、住所カード6の磁気体5部分を磁気カード読取書込手段2に挿入して滑らせれば、データ記憶手段4に記憶している住所データが磁気体5に書込むことが可能となり、名刺や葉書にはあらかじめ磁気体5を形成しておくだけでよく、名刺や葉書の印刷時に住所データを書込する必要はない。

【0014】また、記憶手段4に記憶した住所データを表示するデータ表示手段7を設けたから、住所カード6の複製を作る時や、パーソナルコンピュータBの住所管理ソフトに住所データを取込む時の住所データの確認ができるようになった。

【0015】更に、パーソナルコンピュータBの機能を使えば簡単に住所データを作ることができるから、データ記憶手段4の住所データをマイクロコンピュータBに取込むインターフェース手段8を使って、逆にデータ記憶手段4に住所データを記憶させれば、枠体1内には住所データ作成機能を省略することができ、構造が簡単になったものである。

【0016】

【実施例】図に示すパーソナルコンピュータと組み合わせ使用の実施例によってこの発明を説明すると、Aは本件発明装置を構成する機器、Bは住所管理ソフトが利用できるパーソナルコンピュータ、8はRS-232Cコードを含むインターフェース手段であり、機器AとパーソナルコンピュータBとはインターフェース手段8によって着脱自在に構成されており、住所管理ソフトとのデータ入出力時以外は、インターフェース手段8は取外されて機器Aは単独使用される。

4

【0017】1は機器Aの枠体、2は枠体1に取付けた磁気カード読取書込手段、5はカードに形成した磁気体であり、カードの磁気体5の部分を磁気カード読取書込手段2に挿入して滑らせれば、磁気体5に書込んだ住所データを磁気カード読取書込手段2が読取るものである。

【0018】7は枠体1に取付けたデータ表示手段、9は機器Aの操作スイッチであり、データ表示手段7には、操作スイッチ9による各種の動作状態や、磁気体5から磁気カード読取書込手段2によって読取った住所データの表示や、読取りや書込み時のエラー内容の表示などを行なっている。

【0019】3は枠体1内に設けた磁気カード読取書込手段2で読取った住所データを処理する制御手段、4は枠体1内に設けたデータ記憶手段であり、磁気カード読取書込手段2で読取った住所データが正しく読取られたことを制御手段3が確認すると、読取った住所データをデータ記憶手段4に記憶すると共に、データ表示手段7にデータ記憶手段4に記憶した住所データを表示するのである。そして、データ表示手段7に表示した住所データを目で確認することで、間違った住所データがデータ記憶手段4に記憶されてしまうことが防止できた。

【0020】また、制御手段3が磁気カード読取書込手段2で読取った住所データに、明らかにデータとして異常があると判断した時は、データ表示手段7にエラー内容を表示すると共に、データ記憶手段4の住所データは変更されず、間違ったデータが記憶されないようにしている。

【0021】2aは磁気カード読取書込手段2の動作モードを変更する書込スイッチであり、書込スイッチ2aを操作してから、新規書込みまたは修正書込みするカードの磁気体5の部分を磁気カード読取書込手段2に挿入して滑らせれば、データ記憶手段4に記憶してある住所データを磁気体5に書込むことができ、機器Aの単体の操作だけで磁気カードの複製を作ることができる。

【0022】住所管理用データ入力装置として機能するこの発明では、住所などが印刷させた名刺や葉書を使ってデータ入力を行なうものであり、磁気体5は名刺や葉書に形成されており、該名刺や葉書が磁気カードを構成する住所カード6としたものである。6aは名刺や葉書に書かれた表記住所であり、該表記住所6aと略同一な住所データが磁気体5に書込まれている。

【0023】従って、仕事上で相手に渡す名刺の磁気体5に表記住所6aと略同一な住所データを書込んで渡せば、名刺を受け取った人はこの名刺の磁気体5の部分を磁気カード読取書込手段2に挿入して滑らせるだけで、住所データを磁気カード読取書込手段2が読取ってデータ記憶手段4に記憶させることができる。そして、データ記憶手段4に記憶した住所データは、インターフェース手段によってパーソナルコンピュータBの住所管理ソ

5

フトに入力することができ、住所管理ソフトの各種機能である、例えば文書送付用の宛名書きなどを行なうことができるものである。

【0024】また、パーソナルコンピュータBの機能を使えば簡単に住所データを作成することができるから、この住所データ6をマイクロコンピュータBに取込むインターフェース手段8を使って、逆にデータ記憶手段4に住所データを記憶させることが可能となり、機器A内には住所データ作成機能を省略することができ、構造が簡単になったものである。

【0025】尚、実施例に示す住所管理ソフトはパーソナルコンピュータBのものを使ったが、機器A内にマイコンを搭載すれば、住所管理機能のある専用機とすることができる。そして、内装電源で記憶が保持できるRAMに住所データを貯えたり、機器Aにプリンタを装着してRAM内容のリストの打ち出や、住所ラベルを印刷することができるものである。また、スピーカーなどを備えて住所データの電話番号の発信トーン信号を発生させて自動架電機能なども搭載することができ、専用機としての応用範囲が広がるものである。

【0026】

【発明の効果】パーソナルコンピュータBの住所管理ソフトなどのデータ入力手段として、名刺などに印刷した文字をスキャナーで読取り、OCRソフトを使って印刷した内容を文字データに置きかえて、住所管理ソフトの住所データを自動読取するものがあるが、実際に運用すると変換ミスで正確な文字データが得にくく、また、読取った文字データがどの項目に該当するのか直ちに判断できず、多くの場合はキーボードから修正入力することが必要となり、必ずしも使い勝手は良いとはいえないものであった。

【0027】この発明は名刺のような相手に強い印象を与えたいものでは、書体や活字の大きさを変化させて目的を達成しており、結局高価なシステムでも修正作業を完全になくすことは困難であるので、スキャナーやOCRソフトに代わる安価な磁気カード読取書込手段2をデータ入力装置として選択するもので、名刺や葉書などの住所が記載されている住所カード6に磁気体5を形成し、住所カード6の表記住所6aと同じデータを磁気体5に書込したから、磁気カード読取書込手段2によって全く誤作動なく住所データが住所管理ソフトに取込むことができたものである。

【0028】また、住所カード6である名刺や葉書には

6

あらかじめ磁気体5を形成しておくだけでよく、磁気カード読取書込手段2の書込スイッチ2aをセットして、データ記憶手段4に記憶した住所データを必要のつど磁気体5に書込む複製手段を構成したから、名刺や葉書の作成時にあらかじめ住所データを書込する必要はなく、磁気体5を形成した用紙を使って普通の印刷所で名刺や葉書が印刷作成できるようになった。

【0029】また、この発明装置で住所カード6の磁気体5に住所データを複製書込みしたり、住所管理ソフトに住所データを送る時に、間違った住所データや読取ミスのある住所データを利用する恐れがあるが、この発明ではデータ記憶手段4に記憶した住所データを表示するデータ表示手段7を設けたから、正しい住所データの確認ができるようになった。

【0030】更に、この発明装置はパーソナルコンピュータBの住所管理ソフトのデータ入力装置として機能しており、パーソナルコンピュータBの住所管理ソフトなどで住所データが作成できるから、この住所データはインターフェース手段8を使って、逆にデータ記憶手段4に住所データを記憶させることが可能となり、この発明装置には住所データ作成機能を省略することができ、構造が簡単になったものである。また、一枚の住所カード6ができればパーソナルコンピュータBを使わずに複製機能を使って多数の住所カード6を完成させることができる。

【図面の簡単な説明】

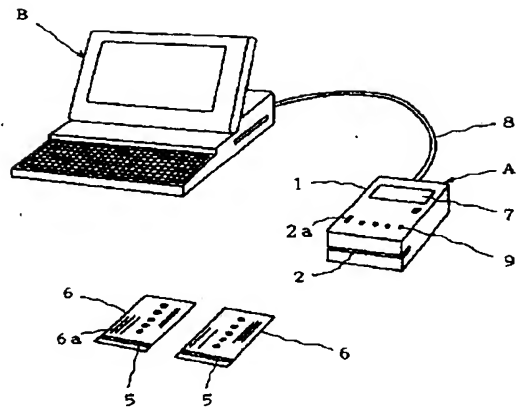
【図1】この発明となる住所管理用データ入力装置の全体システムの実施例を示す構成図である。

【図2】この発明となる住所管理用データ入力装置の構造を示すブロック図である。

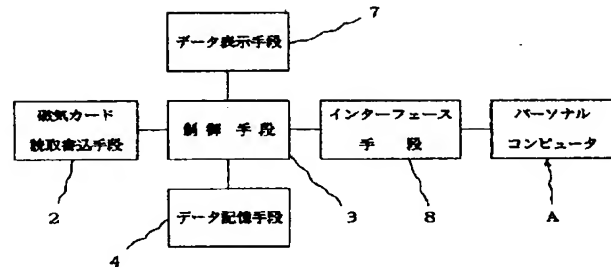
【符号の説明】

- A 機器
- B パーソナルコンピュータ
- 1 枠体
- 2 磁気カード読取書込手段
- 2 a 書込スイッチ
- 3 制御手段
- 4 データ記憶手段
- 5 磁気体
- 6 住所カード
- 6 a 表記住所
- 7 データ表示手段
- 8 インターフェイス手段

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(72)発明者 成木 俊一
愛知県名古屋市南区本城町2丁目51番地

(72)発明者 黒柳 政秋
愛知県名古屋市南区呼続4丁目21番14